

希望の丘はだの 第1回 地域連携推進会議 報告書

日時: 令和7年12月5日(金) 14:00 ~ 15:00

場所: 希望の丘はだの 会議室

出席者: 利用者代表、家族代表、地元自治会長、近隣施設事務局長、司会進行 施設長(管理者)

1. 開催趣旨

令和7年度より居住系サービスで義務化された「地域連携推進会議」の第1回を開催。外部の視点を取り入れることで、運営の透明性確保と地域生活への移行支援の充実を図る。

2. 施設概況と支援方針

当施設は「終の棲家ではない」通過型・循環型施設として、地域移行を目的とした支援を展開している。現員利用者29名(平均31歳)。令和2年~7年9月までに30名が地域生活、19名が就労へ移行。若年層には障害基礎年金受給を見据えた生活基盤の確立を、長期入所者には社会規範の習得やグループホーム(GH)体験利用を重点的に実施している。

3. 質疑応答および意見交換(要旨)

会議では、地域移行の実態や移行後の生活課題について、委員より具体的な指摘がなされた。

①地域移行の実績と方針について(近隣施設事務局長)

【質】平均利用期間や、具体的な地域移行の考え方はどのようなものか。

【答】一定期間の利用を経て地域生活へ移行する方針を徹底しており、直近5年強で24名の移行実績がある。近年はGH生活が困難となった方の再評価や、支援区分の高い方の受け入れニーズにも柔軟に対応している。

②地域生活での「孤独感」とネット利用について(利用者代表)

【質】利用者代表のGH体験利用時の感想として「緊張した」「一人で過ごす時間が長く感じた」との声がある。対策は。

【答】地域生活では「一人で過ごす力」が不可欠。当施設ではWi-Fi整備やネット利用の段階的ルール作りを通じ、適切な余暇の過ごし方を支援している。

③グループホームの質とミスマッチについて(家族代表)

【意】過去にGHを利用したが、支援体制や環境が合わず継続できなかった経験がある。GHの質や選択は非常に難しいと感じる。

【答】近年、日中支援型GHなど選択肢は増えている。当施設での「一人時間の経験」を積み重ねることで、移行後のミスマッチを最小限に抑えるよう努めている。

4. 地域連携・防災に関する協議地域活動

地域活動: 宿矢名自治会との「防犯パトロール」を本年度より再開。今後も継続参加する。

防災協力: 大規模な合同訓練は調整が難しいため、施設主催の訓練に地域住民を招待する形での協力を検討。災害時の職員不足に備え、顔の見える関係構築の重要性を再確認した。

5. 今後の予定

施設見学会を令和8年2月10日に実施することを確認:(案内担当:利用者代表委員)。

報告:希望の丘はだの 施設長(中山)